

第7回建築BIM推進会議の概要報告

連携部会第4回 2021/12/20

BLCJ

議事次第

第7回 建築BIM推進会議

日時：2021（令和3）年12月10日（木）15:00～17:00

場所：web 会議にて

議 事 次 第（案）

1. 開会
2. 議事
 - （1）委員の追加・変更について
 - （2）建築 BIM 環境整備部会の活動報告
 - （3）各部会の活動報告
 - （4）教育・普及に向けた各団体の活動報告
 - （5）今後のスケジュールについて
3. 閉会

【配布資料】

- 資料 1 委員名簿
- 資料 2-1 建築 BIM 環境整備部会（部会 1） 説明資料
- 資料 2-2 建築 BIM 環境整備部会（部会 1） 官庁営繕部の取組みについて 説明資料
- 資料 3 部会間連携について 説明資料
- 資料 4 【部会 2 報告】「BIM モデルの形状と属性情報の標準化検討部会」説明資料
- 資料 5 【部会 3 報告】「BIM を活用した建築確認検査の実施検討部会」説明資料
- 資料 6 【部会 4 報告】「BIM による積算の標準化検討部会」説明資料
- 資料 7 【部会 5 報告】「BIM の情報共有基盤の整備検討部会」説明資料
- 資料 8 【団体報告】日本建築士会連合会 説明資料
- 資料 9 【団体報告】日本建築士事務所協会連合会 説明資料
- 資料 10 【団体報告】日本建築家協会 説明資料
- 資料 11 【団体報告】日本建設業連合会 説明資料
- 資料 12 【団体報告】日本電設工業協会 説明資料
- 資料 13 【団体報告】日本ファシリティマネジメント協会 説明資料
- 資料 14 【団体報告】不動産協会 説明資料
- 資料 15 【団体報告】日本建築学会 説明資料
- 資料 16 建築情報学会 説明資料
- 資料 17 今後のスケジュール等

建築BIM環境整備部会(部会①) 令和3年度の検討状況について

令和3年12月10日

令和2年度

- 令和2年度の官民の建築プロジェクトでの検証はいずれも、「建築分野におけるBIMの標準ワークフローとその活用方策に関するガイドライン(第1版)」で定める標準ワークフローを前提に検証を実施。
 - 官民の建築プロジェクトでの検証の結果、
 - ・標準ワークフローの大きな枠組みは汎用的に各プロジェクトで適用された。
 - ・標準ワークフローに基づく運用上の留意点等や、BIMの定量的な活用メリット等が提言された。
 - ・BEP/EIR等を含む成果物が報告された。
- ※その他、関係部会・団体でも様々な検討が進展。



令和3年度

- 令和3年度の建築BIM環境整備部会(部会1)では、引き続き様々な課題等について官民の試行プロジェクトによる検証を進めつつ、令和2年度の検証結果を基にガイドライン(第2版)への改定について議論予定。

令和3年度の検討体制

○令和3年度は、個別のモデル事業に関する議論は新設するモデル事業WG（仮称）にて実施し、部会ではモデル事業等の試行プロジェクトを通じたガイドラインの改定等に関する議論を中心に実施予定。

建築BIM推進会議 【委員長：松村秀一】

部会① 「建築BIM環境整備部会」 (事務局：国土交通省) 部会長：志手一哉

ガイドラインの改定等の議論

WG 「建築BIM環境整備WG」 (事務局：国土交通省) 主査：志手一哉

ガイドライン改定等の作業等

WG 「先導型BIMモデル事業WG」 (事務局：国土交通省) 主査：清家剛

新設

BIMモデル事業(継続事業4+先導事業者型7+パートナー事業者型5 計16事業)の議論

WG 「中小型BIMモデル事業WG」 (事務局：国土交通省) 主査：小泉雅生

新設

BIMモデル事業(中小事業者BIM試行型 9事業)の議論

部会② 「BIMモデルの形状と属性情報の標準化検討部会」 (BIMライブラリ技術研究組合)

部会③ 「BIMを活用した建築確認検査の実施検討部会」 (建築確認におけるBIM活用推進協議会)

部会④ 「BIMによる積算の標準化検討部会」 ((公社)日本建築積算協会)

部会⑤ 「BIMの情報共有基盤の整備検討部会」 ((一社) buildingSMART Japan)

BIMを活用した建築生産・維持管理プロセス円滑化モデル事業

建築分野において生産性向上に資するBIMの活用を促進するため、設計・施工等のプロセスを横断してBIMを活用する試行的な建築プロジェクトにおけるBIM導入の効果等を検証する取組みを支援する。

支援対象

有識者、関係団体等から構成される建築BIM推進会議で策定された「建築分野におけるBIMの標準ワークフローとその活用方策に関するガイドライン（第1版）」（令和2年3月）に沿って、BIMを活用する試行的な建築プロジェクトについて実施される、以下の効果検証等の取組みに要する費用を支援する。（検証に直接必要となる人件費等）

- ①ガイドラインに沿って行われるプロジェクトにおける、BIM活用による生産性向上等のメリットの検証等
- ②関係事業者が、ガイドラインに沿ってBIMデータを受渡し等しつつ連携するにあたっての課題の分析等

※既に実施済みのプロジェクトについて、改めてBIMを活用して検証するものを含む。

※新築工事に係るプロジェクトだけでなく、増改築工事に係るプロジェクトを含む。

※プロジェクト全体の効果検証等だけでなく、その一部分（例：設計・施工等のプロセス間、又はプロセス内等）の効果検証等を含む。

補助率等

○補助額：定額

○成果物：検証等結果を報告書にまとめ、公表

○補助事業の期間：最長3年まで（ただし毎年度応募・採択が必要）

○応募資格：民間事業者等

※検証等の対象となる建築プロジェクトの発注者等の了解を得ていることが必要

令和2年度のスケジュール等

○公募期間：

令和2年4月23日～6月1日

○採択公表：令和2年6月30日

○応募件数・採択件数：

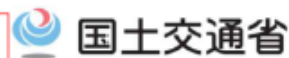
応募件数 40件・採択件数 8件

→うち4件が複数年度事業として応募

番号	令和2年度 採択提案名	事業者
1	RC造及びS造のプロジェクトにおけるBIM活用の効果検証・課題分析	株式会社竹中工務店
2	エービーシー商会新本社ビルにおける建物運用・維持管理段階でのBIM活用効果検証・課題分析	株式会社安井建築設計事務所／日本管財株式会社／株式会社エービーシー商会
3	BIMを活用した不動産プラットフォームの構築による既存オフィスビルの施設維持管理の高度化と生産性向上	東京オペラシティビル株式会社／プロパティデータバンク株式会社
4	維持管理 BIM 作成業務等に関する効果検証・課題分析	前田建設工業株式会社／株式会社荒井商店
5	建物のライフサイクルを通じた発注者によるBIM活用の有効性検証	日建設計コンストラクション・マネジメント株式会社
6	Life Cycle BIM	株式会社日建設計／清水建設株式会社
7	新菱冷熱工業株式会社中央研究所新築計画における建物のライフサイクルにわたるBIM活用の効果検証と課題分析（ステージ S2～S4）	新菱冷熱工業株式会社
8	病院事例における維持管理までのワークフローを含めた効率的なBIM活用の検証	株式会社久米設計

令和3年度BIMを活用した建築生産・維持管理プロセス円滑化モデル事業

令和3年度予算額
200,000千円



建築分野において生産性向上や産業転換、価値創出等に資するBIMの活用を促進するため、設計・施工等のプロセスを横断してBIMを活用する試行的な建築プロジェクトにおけるBIM導入の効果等を検証する取組みを支援する。

支援対象

有識者、関係団体等から構成される建築BIM推進会議で策定された「建築分野におけるBIMの標準ワークフローとその活用方策に関するガイドライン（第1版）」（令和2年3月）に沿って、BIMを活用する試行的な建築プロジェクトについて実施される、効果検証・課題分析等の取組みに要する費用（検証に直接必要となる人件費等）を支援。

※既に実施済みのプロジェクトで改めてBIMを活用して検証するものや、増改築工事に係るプロジェクトも含む。

※プロジェクト全体の効果検証等だけでなく、その一部分（例：設計・施工等のプロセス間、又はプロセス内等）の効果検証等を含む。

補助率等

- 補助額：定額
- 成果物：検証等結果を報告書にまとめ、公表
- 補助事業の期間：原則単年度（必要に応じて複数年度も可）
- 応募資格：民間事業者等 ※検証等の対象となる建築プロジェクトの発注者等の了解を得ていることが必要

令和3年度の公募概要・スケジュール等

【A 先導事業者型】：先導性をもった事業者の中から、令和2年度に検証されていない内容であり、かつ特に発注者メリットを含む検証等を行うもの（令和3年3月10日～4月9日公募、5月26日採択公表）（応募16件、採択7件）

①ガイドラインに沿って行われるプロジェクトにおける、BIM活用による生産性向上や価値創出等のメリット（特に発注者メリット）の検証等

②関係事業者が、ガイドラインに沿ってBIMデータを受渡し等しつつ連携するにあたっての課題（特に発注者・受注者の役割分担）の分析等

【B パートナー事業者型】（注：補助対象外）：令和2年度に検証されていない内容であり、広範なメリットや課題について検証等を行い、建築BIM推進会議に連携・提言を行うもので、評価委員会にて一定の評価を受け、自らの費用負担にて事業を実施するもの（令和3年3月22日～4月23日公募、6月7日採択公表）（採択5件）

【C 中小事業者BIM試行型】：中小事業者が事業者間でグループを形成し、試行的にBIMを活用し、BIMの普及に向けた課題解決策の検証等を行うもの（令和3年4月16日～5月17日公募、7月1日採択公表）（応募24件 採択9件）

事業の目的

主に中小事業者によるBIM導入や活用における課題の分析等を通じ、

- BIMの導入から活用に至る、各ステップと効果をもとにした業界共通のロードマップを示すこと
- 複数事業者にて同時に取り組むことで、共通課題をともに解決する学びの場の提供や、共通してBIMデータを活用する環境整備を行うこと

により、BIMのさらなる普及を目指すことを目的とする。

公募する事業

中小事業者において、複数の事業者等とグループを結成し、BIMガイドラインの標準ワークフローを前提とした建築プロジェクトで以下の(1)～(3)のすべてを実施する事業 (令和3年4月16日～5月17日公募、7月1日採択公表) (応募24件 採択9件)

- (1) 建築プロジェクトへのBIMの導入や試行的な取り組みを通じて生じる「課題の分析」と、その「課題解決のために実施する対応策」の検討
- (2) (1)の検討を通じた「BIMの活用効果」の検証と、その効果を増大させる「今後の改善方策」の検討
- (3) (1)・(2)を通じた、中小事業者のBIMの導入・活用ロードマップ素案を提示

(参考) 中小事業者における現状

BIMの導入期における現状

- ・ 現状、CADを活用して十分に業務を実施できているため、BIMの導入メリット(費用対効果)が十分に見えない中、BIMの導入や移行に躊躇している事業者が多い。

BIMの活用初期の現状

- ・ 導入初期は、BIMによる部分的な検討から着手する例が多いが、最終的な図面化にはCADを用いるなど、費用や手間の二重化が生じている。
- ・ 周囲に活用している人材がおらず、不明点や疑問点を質問によって解消することが難しいなど、習得の環境が整備されていない。

BIM活用初期～中期の現状

- ・ BIMでの図面化が可能となった後も、協力業者でのBIM導入が進んでいないため、データを協力業者などへ受け渡すことができないなど、BIMのメリットを十分に生かせる環境整備ができていない。
- ・ どこまで習熟すればどういう効果が得られるかが不明確なまま、負担・投資を継続。

令和3年度BIMモデル事業 採択事業一覧①（継続・先導事業者型・パートナー事業者型）

令和2年度からの継続事業		事業者
1	RC 造及び S 造のプロジェクトにおける BIM 活用の効果検証・課題分析	株式会社竹中工務店
2	エービーシー商会新本社ビルにおける建物運用・維持管理段階での BIM 活用効果検証・課題分析	株式会社安井建築設計事務所／日本管財株式会社／株式会社エービーシー商会
3	BIM を活用した不動産プラットフォームの構築による既存オフィスビルの施設維持管理の高度化と生産性向上	東京オペラシティビル株式会社／プロパティデータバンク株式会社
4	新菱冷熱工業株式会社中央研究所新築計画における建物のライフサイクルにわたる BIM 活用の効果検証と課題分析	新菱冷熱工業株式会社
令和3年度 先導事業者型		事業者
1	木造住宅における、BIM とクラウドサービスを用いたCDEとECIの効果検証・課題分析	株式会社アンドパッド／株式会社小林・楨デザインワークショップ (KMDW)／株式会社 DN-Archi／株式会社長谷川萬治商店／株式会社長谷川萬／学校法人慶應義塾大学
2	VRモックアップの効果検証と維持管理BIMの課題分析	株式会社梓設計／戸田建設株式会社／株式会社ハリマビシステム
3	Life Cycle Consulting 発注者視点でのBIM・LCCに関する効果検証・課題分析	株式会社日建設計／株式会社荒井商店
4	技術研究施設におけるBIMモデルを用いた維持管理業務効率化等の検証	株式会社奥村組
5	建材と施工の電子商取引に向けたBIMデータ連携の効果検証・課題分析	スターツアセットマネジメント株式会社
6	業務効率及び発注者メリットを最大限に創出する【役に立つBIM】の効果検証	大和ハウス工業株式会社／株式会社フジタ
7	建築のライフサイクルを通じた発注者によるBIM活用の有効性検証(令和3年度事業)	日建設計コンストラクション・マネジメント株式会社／日本郵政株式会社
令和3年度 パートナー事業者型		事業者
1	BIMを活用した建物ライフサイクル情報管理とデジタルツイン及びソフトウェアエコシステムによる支援の検証	鹿島建設株式会社
2	発注者の資産となるべき情報のBIM活用における調査・検証・課題分析	明豊ファシリティワークス株式会社
3	増築工事における、BIM モデル活用による生産性向上の検証	東急建設株式会社
4	生産施設における BIM 活用検証(環境・木材利用・建築生産)	大成建設株式会社
5	クラウドコンピューティングを活用したプロジェクト関係者間におけるB、C工事も想定したBIMデータ連携およびコンピューショナルデザインとスペースマネジメントに関する取り組み	東洋建設株式会社

令和3年度BIMモデル事業 採択事業一覧②（中小事業者BIM試行型）

令和3年度 中小事業者BIM試行型		事業者
1	地域の設計業者を束ねたフルBIM モデル構築と地方ゼネコンにおけるBIM 規格の有効性確認とその効果検証	美保テクノス株式会社／株式会社桑本建築設計事務所／株式会社平設計／有限会社亀山設計／ダイキンHVAC ソリューション中四国株式会社／ダイキン工業株式会社
2	内装専門工事業者による施工BIM活用の検証と提言	新日本建工株式会社／キートラスト&アーキテクロロジー合同会社／株式会社APPLICA
3	仮想PJ 見谷ビル新築工事におけるBIM 活用による基礎工事の施工効率化の試行	株式会社見谷組／轟建設株式会社
4	庄内BIM 研究会におけるBIM 活性化に向けたケースメソッドとワークフローへのアプローチ	ブレンスタッフ株式会社／株式会社佐藤工務／鶴岡建設株式会社／林建設工業株式会社／株式会社丸高
5	千葉県BIM推進会議	千葉県耐震判定協議会／一般社団法人千葉県建築士会／公益社団法人日本建築家協会関東甲信越支部千葉地域会JIA千葉／一般社団法人日本建築構造技術者協会関東甲信越支部JSCA千葉／一般社団法人千葉県設備設計事務所協会
6	個別またはクラウド共同設計における、構造種類別BIMスターターパックとBIM支援環境整備の有効性検証の提案	フローワークス合同会社／一級建築士事務所山田屋／東原建築工房／有限会社原忠／PLATS一級建築士事務所／株式会社ファンシア 齋藤正吉建築研究所／design office porte／bless空間設計／平光佳絵／Liv設計工房／スタンスアーキテツ株式会社
7	地方における地場業者間でのBIM連携モデル検証	株式会社ixrea／株式会社渡辺組
8	ヒロシマBIMプロジェクト	株式会社杉田三郎建築設計事務所／株式会社田原泰浩建築設計事務所／下岸建設株式会社
9	BIMによるライフサイクルアセスメント(LCA)への展開と有効性の検証	株式会社FMシステム／東京都立大学

ガイドライン第2版(案)の基本方針

- モデル事業等の試行プロジェクトに基づいた修正意見を前提とする。
- 意見内容は具体的な修正案を伴うものを前提とする。
- 改定のポイントを選定し、部会・WG等での議論を実施し検討・意見調整。

Step 1 ガイドライン第2版(案)の骨子の検討・議論

- ガイドライン第2版の骨子（目次案）についての関係団体への意見照会（8月～9月）



- 提案例 1：第1版の骨子をもとに、モデル事業や関係団体等の取組みを事例集として付加。
- 提案例 2：第1版は、標準ワークフローや当該時点での課題・解決への方向性について規定。
第2版はプロジェクトへの適用を前提に、BEP/EIRのひな型を軸に再構成し、第1版から必要なエッセンスのみを移行
- 提案例 3：試行プロジェクト等の結果に基づき、一定の知見を整理できるものを章として追加

- 事務局にて意見を取りまとめ、部会・WG等で議論を実施（10月～12月）

Step2 ガイドライン第2版(案)の肉付け作業

- ガイドライン第1版への修文意見・第2版にて追加する文章案についての意見照会（12月～1月）



- 事務局にて意見を取りまとめ、部会・WG等で議論を実施し、確定（2月～3月）

Step 1 ガイドライン第2版(案)の骨子の検討・議論

Step 1-1 ガイドライン第1版の構成について

- 受け渡しを前提としたワークフローの確立を目的とし、基本的な考え方を整理
- パターン別のワークフローにおける、具体的な契約や業務内容、メリットの記載が中心
- 現時点での課題・メリット等については、一定の知見を整理

Step 1-2 ガイドライン第1版の構成に関する主な意見

意見 1 個別の項目に関するもの

- BEP/EIRほか、ワークフローに必要な記載を追加すべき
- モデル事業の成果等、具体的な事例に基づいたメリット等の充実化が必要

意見 2 記載順に関するもの

- 課題やメリット等に関する記載が分散し、目的の部分を探しづらい
- パターン別に記載したワークフローについて、内容が重複し読みづらい
- 全体の流れを考慮し、記載順を整理すべき

Step 1-3 ガイドライン第2版における対応方針

検討 1 追記項目等の整理・検討

- 現時点の知見のうち、**ガイドラインに反映可能な項目**を議論
- 成果としてまとまらず、反映できないと考えられるものについても、**今後の検討課題として整理**し、継続的な議論や検証の対象とする
- モデル事業の成果等から、事例の記載を充実化

今回の改定で議論を行い反映するもの(案)

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1.発注者メリットと発注者の役割 | 5.標準ワークフローのパターン |
| 2.データの受け渡しの方法 | 6.維持管理BIMの作成方法 |
| 3.BEP/EIR | 7.ライフサイクルコンサルティング |
| 4.各ステージの業務内容と成果物 | 8.各部会等の取組 |

次回以降に向け継続的議論が必要なもの

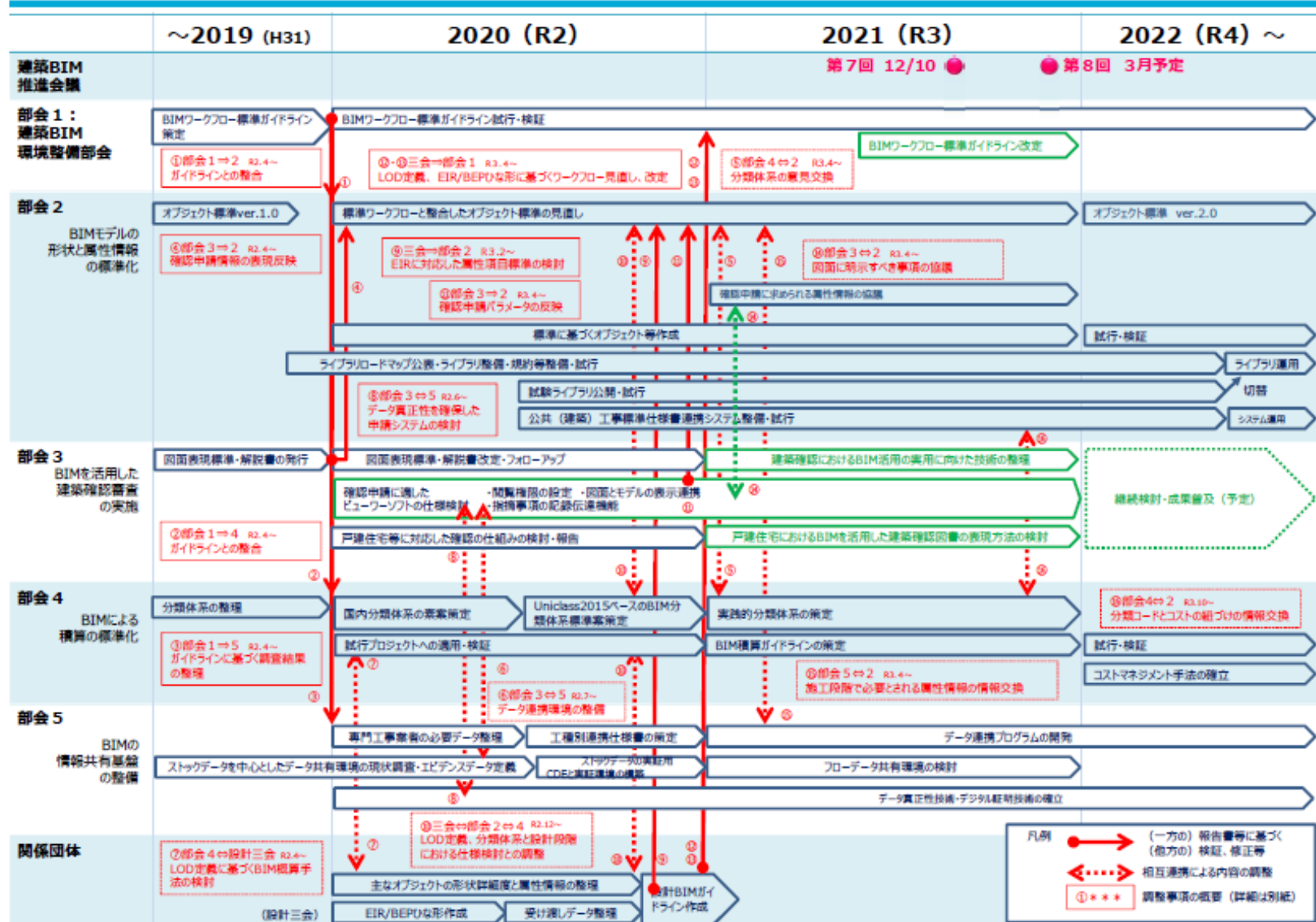
- | | |
|----------------|-----------------|
| 11.設計変更の対応について | 15.施工技術コンサルティング |
| 12.LOD/LOI | 16.設計責任と契約について |
| 13.BIMマネージャー | 17.竣工モデルの定義 |
| 14.業務報酬について | 18.著作権について |

検討 2 記載順の整理

- 各団体意見を集約し、記載順を整理した事務局案を作成

第7回建築BIM推進会議
資料 3

建築BIM推進会議 部会連携のスケジュール(令和3年12月時点) 緑字が変更点



建築BIM推進会議 部会連携のスケジュール(令和3年12月時点)

項目	内容	対応者	想定対応時期	令和3年11月時点の進捗状況
①部会1⇔2 ガイドラインとの整合	建築分野におけるBIMの標準ワークフローとその活用方法に関するガイドライン(第1版)(以下、BIMガイドライン)との整合を図り、オブジェクト標準の見直しを行う。	部会2	2020(R2).4~	検討中 部会2でオブジェクト標準を策定するに当たり、BIMガイドラインのステータスを参照し、属性項目の分類を検討している。
②部会1⇔4 ガイドラインとの整合	BIMガイドラインとの整合を図り、分類体系の見直しを行う。	部会4	2020(R2).4~	検討中 部会1と連携し、分類体系の整理拡充を実行中。 部会4の作業進捗状況は、BSIJ情報委員会等で週部会1に情報伝達。
③部会1⇔5 ガイドラインに基づく調査結果の整理	BIMガイドラインの内容に基づき、調査結果の整理を行う。	部会5	2020(R2).4~	検討中 BIMガイドラインの内容とCDEの調査結果に基づいて、今後検討を行なう予定としている。
④部会3⇔2 確認申請情報の表現反映	確認図面の表現標準および解説書に基づき、オブジェクト標準の見直し、改定を行う。	部会2	2020(R2).4~	検討中 部会3より令和2年度成果を提供・共有 部会2で意見・設備パラメータリストへ展開予定。
⑤部会4⇔2 分類体系の意見交換	分類体系の考え方等に関する意見交換を行う。	部会2	2021(R3).4~	検討中 R3.3から部会2と部会4で意見交換を行い、分類体系に関する課題を抽出し、共通認識化を図った。今後は、その課題解決に向けた検討を行う予定。
⑥部会3⇔5 データ連携環境の整備	確認申請におけるデータ連携環境について、希望事項と技術的課題を整理し、対応方針の策定を行う。	部会3・5	2020(R2).7~	検討中 部会5(bSJ)として、R2年度BIMプロジェクトのデータ共有システムの調査を行い、共通データ環境の整備すべき機能についての検討を行なった。R3年度から、共通データ環境におけるIFCデータの取扱いについて検討を進めている。 部会3との連携については、部会5の検討結果を踏まえ、協議の予定としている。
⑦部会4⇔設計三会 LOD定義に基づくBIM概算手法の検討	基本計画、基本設計のステージで概算精度を高めるためのBIMデータの形状と情報に対する役割と責任の整理	部会4・三会	2020(R2).4~	検討中 設計三会から公表された「設計BIMワークフローガイドライン建築設計三会(第1版)」を参考に、部会4内でLOD定義を検討中。今後設計三会との具体的な作業内容を検討する。
⑧部会3⇔5 データ真正性を確保した申請システムの検討	⑥に関連し、データ連携環境の構築とともに、データの真正性を確保した申請システムについて検討する。	部会3・5	2020(R2).6~	検討中 部会5(bSJ)として、R2年度データの真正性についての検討を行なった。R3年度から、システムの試作検討を進めている。 部会3との連携については、部会5の検討結果を踏まえ、協議の予定としている。
⑨三会⇔部会2 EIRに対応した属性項目標準の検討	EIRとBEPのひな型に対応した属性項目をオブジェクト標準に反映する。	部会2	2021(R3).2~	検討中 部会2でオブジェクト標準を策定するにあたり、三会のEIRとBEPのひな型の詳細度表を参照して、属性項目の分類を検討している。
⑩三会⇔部会2⇔4 LOD定義、分類体系と設計段階における仕様検討との調整	設計段階における形状詳細度と属性情報量の段階的な定義について整理する。	部会4・2・三会	2020(R2).12~	検討中 三会が策定した詳細度表を参照して、R2年度に部会2で検討用サンプル建物(建築のS2とS3)を策定し、BIMモデルで詳細度を確認した。
⑪部会3⇔2 確認申請ビューに表現するパラメータをオブジェクト標準の標準パラメータに追加する。	確認申請ビューに表現するパラメータをオブジェクト標準の標準パラメータに追加する。	部会2	2021(R3).4~	検討中 部会2で策定した検討用サンプルモデル(建築・設備ともS3)を部会2から部会3へ提供/部会3で確認申請ビューに表現するパラメータを検討中。
⑫三会⇔部会1 LOD定義に基づくワークフロー見直し、改定	BIM標準ワークフローのステージ毎での形状詳細度、属性情報量の検討内容に基づき、BIMの標準ワークフローの見直し、BIMガイドラインの改定を行う。	部会1	2021(R3).4~	検討中 ガイドラインの改定について、部会にて検討中。形状詳細度、属性情報量をふまえた検討については、次回以降の改定に向け、継続検討項目として整理した。
⑬三会⇔部会1 EIR/BEPのひな型に基づくワークフロー見直し、改定	EIR/BEPのひな型に基づき、BIMの標準ワークフローの見直し、BIMガイドラインの改定を行う。	部会1	2021(R3).4~	検討中 ガイドラインの改定について、部会にて検討中。EIR/BEPについては、ガイドラインの改定の際に事例として示す方向で調整中。
⑭部会3⇔2 図面に明示すべき事項の協議	確認審査の「図面に明示すべき事項」をBIMの属性情報に展開し、必要な情報がすべて含まれるか、定義は同じか等協議する。	部会2	2021(R3).4~	検討中 部会2で策定したBLCJパラメータリストと、検討用サンプル建物(建築・設備ともS3)を部会2から部会3へ提供/部会3で確認審査の「図面に明示すべき事項」を検討中。検討用サンプル建物における「図面に明示すべき事項」で不足する属性情報の結果は部会3から部会2へ提供予定。
⑮部会5⇔2 施工段階で必要とされる属性情報の共有化に関する情報交換	主に施工段階で必要とされる属性情報の共有化に関する情報交換を行う。	部会2	2021(R3).4~	検討中 部会2と部会5で連携し、施工段階(専門工事業者連携)に必要な属性情報の共有化を見据えて情報交換を行なっている。ドア、EVを中心に窓、シャッター、便器・洗面の属性情報の共有化を行ない、今年度は〜S3レベルまでの属性情報を策定予定としている。
⑯部会4⇔2 分類コードとコストの紐づけの検討	分類コードとコストの紐づけの考え方に関する情報交換を行う。	部会2	2021(R3).10~	検討中 部会2で策定した検討用サンプル建物(建築・設備ともS3)を部会4に提供し、概算算出に活用中。そのうえで、今後、分類コードとコストの紐づけの可能性を検討予定。

〔一般建築〕作業部会

(2) 令和3年度の活動内容

1. 建築確認審査に必要な情報、審査機序、表現方法の検討

過年度作成BIMモデル（下表）に収蔵された属性情報から、建築確認審査に必要な情報（モデルビューに必要な情報）を抽出し、**各モデル共通の属性項目**を整理

⇒属性項目の設定は、建築設計三会・BLCJが検討したオブジェクトとその属性情報を参考

表－過年度作成BIMモデルの概要

項目		モデルA	モデルB	モデルC	モデルD
使用 BIM ソフト	意匠	・ Revit	・ Revit ・ Archicad	・ Revit	・ GLOOBE
	構造	・ Revit	・ Revit	・ Revit	－
	設備	・ Revit	・ Revit ・ Rebro	・ CADWe'll Tfas	－
BIMモデル 作成協力者		日建設計 日本設計	大林組 竹中工務店 清水建設	大和ハウス工業	福井コンピュー タアーキテクト (J-BIM研究会)
用途		事務所・飲食店	共同住宅・物品販 売業を営む店舗	ホテル・飲食店	サービス付き高 齢者住宅

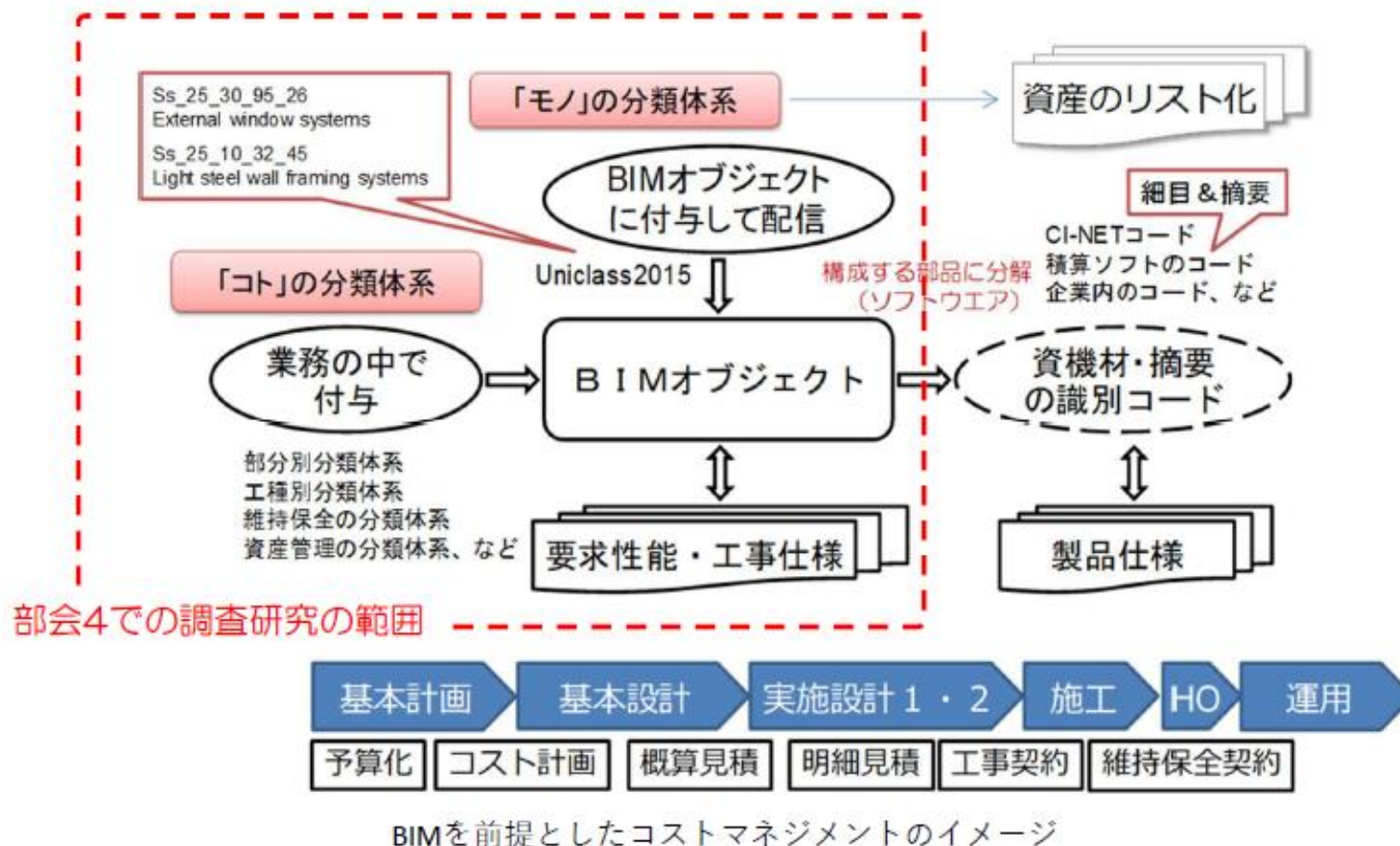
各モデル共通の属性項目の抽出・整理

分野	概 要
意匠	建築設計三会・BLCJパラメータリスト (部屋・エリア・壁・開口部など)
構造	BLCJパラメータリスト (柱・梁など)
設備	BLCJパラメータリスト (空調機、全熱交換器など)



- ・ビューを得るためのBIMモデル
属性情報整理
- ・整理結果は部会2へ提供（予定）

建築情報分類体系の考え方と部会4の調査研究範囲



専門工事業者BIM連携WG 活動報告

専門工事業者データ連携の進め方

◆情報の受渡しを紙媒体からデジタルデータへ

①「施工者・専門工事業者が欲しい情報」を工種別に整理

②工種別にパラメータを整理し、名称のすり合わせ

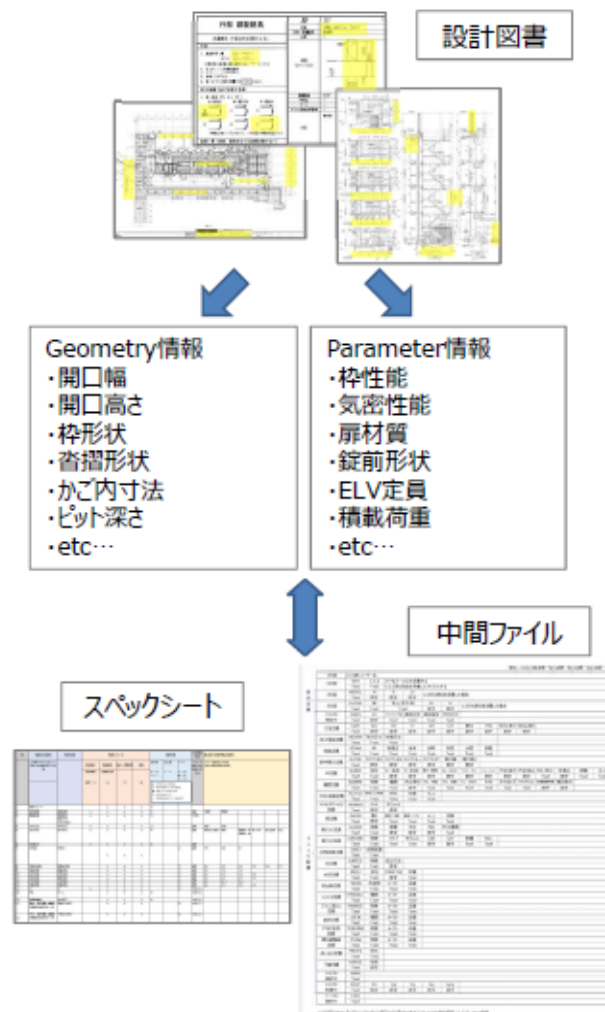
※名称については各部会と調整

③基本設計、実施設計、施工、製造段階で扱う

パラメータの整理（スペックシート）

④連携用中間ファイルの仕様策定

⑤実装





【団体報告資料】

(公社) 日本建築士会連合会の取り組み

報告内容

1. 運営主体と全国展開について
2. 活動の概要
3. BIMポータルサイト
4. チュートリアルテキスト、動画公開サイトのご紹介
5. 今後の取り組み

情報広報委員会

情報部会長 大石佳知（岐阜県建築士会）

2021/12/10

公益社団法人 日本建築士会連合会

1

1. 日事連のBIM普及・教育に対する姿勢

- 第1回BIM推進会議で提示した5策
 - 策1:BIM活用の裾野を広げる(◎)
 - 策2:建築士事務所の活用能力を高め、積極活用を支援(◎)
 - 策3:BIMの社会的基盤をつくる(＊)
 - 策4:ベンチマークとなるプロジェクトをつくる(＊)
 - 策5:未達成の社会課題に取り組み、未来社会を先取りする
- ＊は、国土交通省建築BIM推進会議にて取り組み、あるいは連携。
- ◎は、現在のBIMの普及状況、日事連会員事務所の約8割が30人以下の事務所である現状に即し、中小事務所に資する普及・教育に関する活動に注力。
- 必要に応じて、建築設計三会の所属会員に成果を共有する。

建築家協会の活動

1. 「設計BIMワークフローガイドライン 建築設計三会（第1版）」の発刊について

[設計BIMワークフローガイドライン 建築設計三会（第1版）.pdf \(mita.go.jp\)](#)



目 次	
はじめに	1
1. 本ガイドラインの趣旨	4
1-1. 本ガイドラインの趣旨	4
1-2. 本ガイドラインの位置づけ	5
1-3. 「建築設計三会」の設計BIMワークフローとその活用に関する考え方	6
2. 設計BIMワークフローの構築	12
2-1. 設計BIMワークフローの構築（ストーリー）	12
2-2. 設計BIMワークフローの構築（ストーリー）	13
3. 各ステージの構築内容と成果物	16
3-1. 設計、施工、運用段階の構築内容と成果物	16
3-2. 設計、施工、運用段階の構築内容と成果物	17
4. 各ステージの設計・構築・運用・成果物のBIMデータ生成（詳細）	28
4-1. 設計の各ステージの設計・構築・運用・成果物のBIMデータ生成	28
4-2. 設計の各ステージの設計・構築・運用・成果物のBIMデータ生成	30
4-3. 設計の各ステージの設計・構築・運用・成果物のBIMデータ生成	32
4-4. 設計の各ステージの設計・構築・運用・成果物のBIMデータ生成	33
5. オブジェクト別のBIMデータ生成	37
5-1. オブジェクト別のBIMデータ生成（目的・用途）	37
5-2. オブジェクト別のBIMデータ生成（目的・用途）	38
5-3. オブジェクト別のBIMデータ生成（目的・用途）	39
5-4. オブジェクト別のBIMデータ生成（目的・用途）	40
5-5. オブジェクト別のBIMデータ生成（目的・用途）	41
5-6. オブジェクト別のBIMデータ生成（目的・用途）	42
5-7. オブジェクト別のBIMデータ生成（目的・用途）	43
6. 設計から施工、運用段階に引き継ぐBIMデータについて	118
6-1. 設計から施工、運用段階に引き継ぐBIMデータについて	118
6-2. 設計から施工、運用段階に引き継ぐBIMデータについて	119
6-3. 設計から施工、運用段階に引き継ぐBIMデータについて	120
7. 設計BIMワークフローの構築（BIMデータ生成）	125
7-1. 設計BIMワークフローの構築（BIMデータ生成）	125
7-2. 設計BIMワークフローの構築（BIMデータ生成）	126
7-3. 設計BIMワークフローの構築（BIMデータ生成）	127
8. BIMと連携するソフトウェアの活用（BIMデータ生成）	128
8-1. BIMと連携するソフトウェアの活用（BIMデータ生成）	128
8-2. BIMと連携するソフトウェアの活用（BIMデータ生成）	129
8-3. BIMと連携するソフトウェアの活用（BIMデータ生成）	130
資料：建築設計のBIMワークフローガイドライン（BIMデータ生成）	131
資料：建築設計のBIMワークフローガイドライン（BIMデータ生成）	132

目 次	
1. 本ガイドラインの趣旨	4
1-1. 本ガイドラインの趣旨	4
1-2. 本ガイドラインの位置づけ	5
1-3. 「建築設計三会」の設計BIMワークフローとその活用に関する考え方	6
2. 設計BIMワークフローの構築	12
2-1. 設計BIMワークフローの構築（ストーリー）	12
2-2. 設計BIMワークフローの構築（ストーリー）	13
3. 各ステージの構築内容と成果物	16
3-1. 設計、施工、運用段階の構築内容と成果物	16
3-2. 設計、施工、運用段階の構築内容と成果物	17
4. 各ステージの設計・構築・運用・成果物のBIMデータ生成（詳細）	28
4-1. 設計の各ステージの設計・構築・運用・成果物のBIMデータ生成	28
4-2. 設計の各ステージの設計・構築・運用・成果物のBIMデータ生成	30
4-3. 設計の各ステージの設計・構築・運用・成果物のBIMデータ生成	32
4-4. 設計の各ステージの設計・構築・運用・成果物のBIMデータ生成	33
5. オブジェクト別のBIMデータ生成	37
5-1. オブジェクト別のBIMデータ生成（目的・用途）	37
5-2. オブジェクト別のBIMデータ生成（目的・用途）	38
5-3. オブジェクト別のBIMデータ生成（目的・用途）	39
5-4. オブジェクト別のBIMデータ生成（目的・用途）	40
5-5. オブジェクト別のBIMデータ生成（目的・用途）	41
5-6. オブジェクト別のBIMデータ生成（目的・用途）	42
5-7. オブジェクト別のBIMデータ生成（目的・用途）	43
6. 設計から施工、運用段階に引き継ぐBIMデータについて	118
6-1. 設計から施工、運用段階に引き継ぐBIMデータについて	118
6-2. 設計から施工、運用段階に引き継ぐBIMデータについて	119
6-3. 設計から施工、運用段階に引き継ぐBIMデータについて	120
7. 設計BIMワークフローの構築（BIMデータ生成）	125
7-1. 設計BIMワークフローの構築（BIMデータ生成）	125
7-2. 設計BIMワークフローの構築（BIMデータ生成）	126
7-3. 設計BIMワークフローの構築（BIMデータ生成）	127
8. BIMと連携するソフトウェアの活用（BIMデータ生成）	128
8-1. BIMと連携するソフトウェアの活用（BIMデータ生成）	128
8-2. BIMと連携するソフトウェアの活用（BIMデータ生成）	129
8-3. BIMと連携するソフトウェアの活用（BIMデータ生成）	130
資料：建築設計のBIMワークフローガイドライン（BIMデータ生成）	131
資料：建築設計のBIMワークフローガイドライン（BIMデータ生成）	132

第1版を発刊致します。関連団体の皆様に配布の予定しております。

既に建築BIM推進会議HPにもPDF版を掲載頂いておりますので、ぜひ、ご活用頂ければと思います。

建築設計三会 設計BIMワークフローガイドライン 検討委員会では引き続き検討を行い、

必要に応じて、更新を予定しております。

主な活動内容と部会との関連性

年度		2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5) -
日建連の 主な活動	KeyDate	施工BIMの インパクト(11) ITセミナー(02)	施工BIMの インパクト(11) 施工BIMの タイトル2020(03) ITセミナー(02)	BIM部会発足 (04) 施工BIMの インパクト(11) BIMセミナー(06)	施工BIMの インパクト BIMセミナー 事例集BIMセミナー+ 2022発行 事例発表会	施工BIMの インパクト
	解説① BIMのロードマップ (設計・施工部門)			検討・作成	公開	課題解決に向けた活動
	解説② 設計施工一貫(パターン ④)のワークフロー検討			(仮)公開 検討・作成	公開	検証
	EIR/BEP			ひな形検討	公開	検証
	BIMのワークフロー (BIMモデル承認)		中間報告書	手法の検討・課題点抽出	中間報告書	最終報告書 検証
	工事現場でBIMモデルを 活用する場面の整理		手法の検討・課題点抽出	小冊子公開		検証
	仮設ライブラリ標準化	移動式クレーン(属性標準化・ライブラリの公開)		報告書・ ライブラリ公開	その他、仮設系ライブラリ(属性標準化)	
解説③	教育・啓蒙	セミナー開催(日建連BIMセミナー・施工BIMのインパクト) リーフレット・報告書の公開				
周知	・『施工BIMのスタイル』 シリーズの編集・発行 ・会員企業のBIM実態調査	『施工BIMのスタイル2020』編集		BIM 実態調査 分析	速報値公開 『スタイル事例集 2022』の編集	『施工BIMのスタイル 事例集2022』発行

部会2 : BIMモデルの形状と属性情報の標準化

部会1 : 建築BIM環境整備部会

部会5 : BIMの情報共有基盤の整備

連携方法は
今後検討

参考 | 設計と施工で連携する体制の強化

建築BIM合同会議を設置

施工BIMの推進から建築BIM（日建連版）の推進へ

【背景】

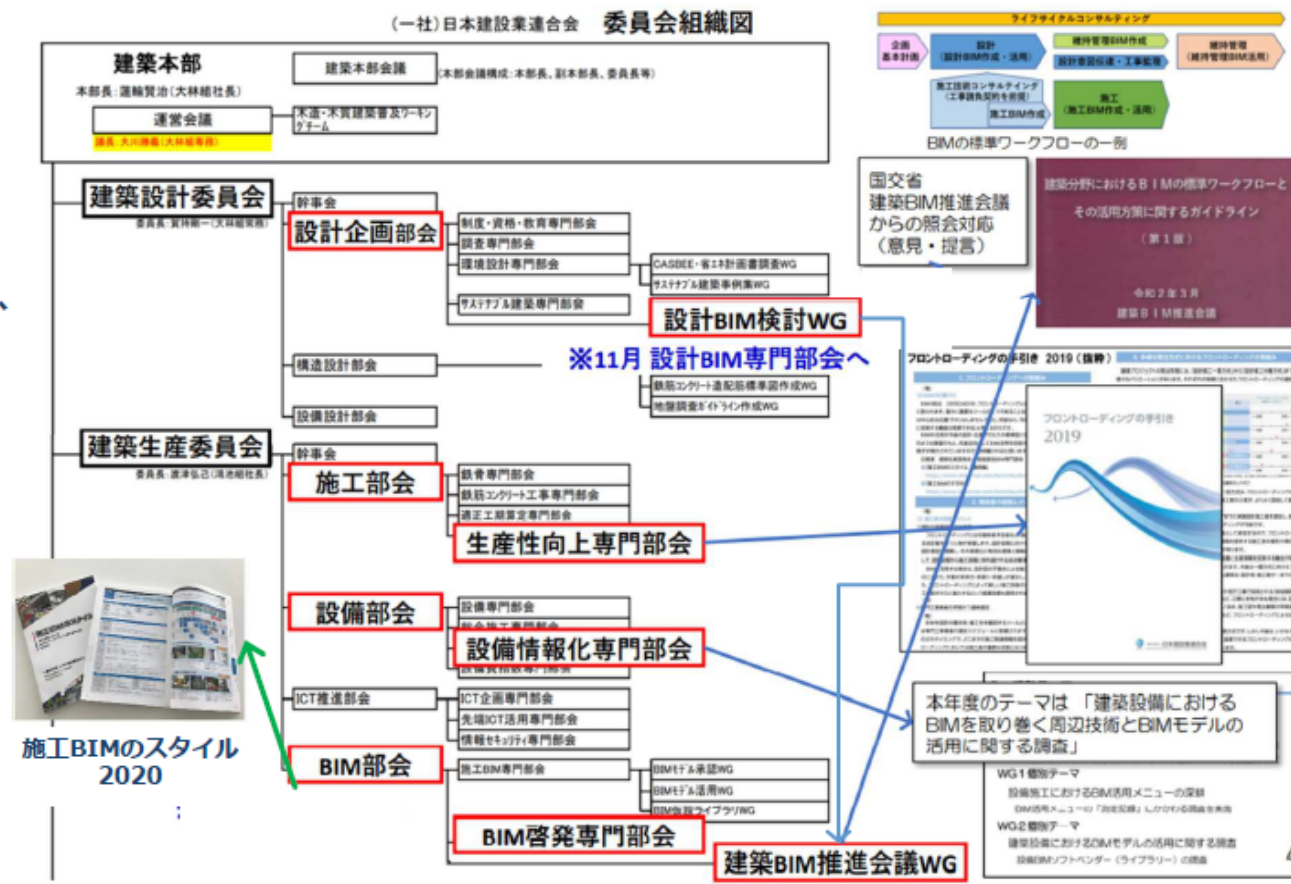
建築BIMの推進を加速するには、施工BIMを検討するだけでなく、設計BIMとの連携や設計から施工への情報伝達、フロントローディング、設備分野のBIMなどの課題を共有し、解決を図ることが大切になると考えています。

【体制】

建築本部内の委員会横断で検討・討議を加速します

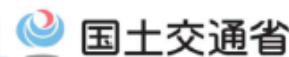
【現在の活動内容】

ロードマップや設計施工一貫発注におけるBIMの在り方などの検討を開始しています



建築BIM推進会議・部会等のスケジュール [令和3年度]

第7回建築BIM推進会議
資料 1 7



- ✓ 令和3年度は、令和2年度に引き続き、官民が発注する実際のプロジェクトにおいて、「建築分野におけるBIM標準ワークフローとその活用方策に関するガイドライン（第1版）」に沿って試行的にBIMを導入。建築BIM環境整備部会・WGでその検証の経過や結果について共有・議論。
- ✓ また、令和2年度の検証結果を基にガイドラインの改定について議論。
- ✓ 建築BIM推進会議は、引き続き各部会の進捗状況の確認及び検討結果の共有、関係団体の活動状況の共有を図る場として活用。

